

伝国の杜 こども狂言クラブの一年



「和泉流狂言師山下浩一郎先生による稽古①」

平成 25 年 6 月 23 日（日）

伝国の杜こども狂言クラブは、平成 25 年 6 月 23 日（日）に、本年度最初の和泉流狂言師の山下浩一郎先生による稽古を行いました。この日は、5 名が稽古に参加しました。

平成 25 年度は、山下先生を迎えての稽古は月 1 回となります。昨年度までは月 2 回ありましたが、本年は自主稽古を強化しようという方針から月 1 回と決まりました。例外として、発表会が近くなったら、月 2 回行うことになりました。

この日の前半の稽古では、本年度に習う狂言・小舞の演目を決め、後半は小舞「七つ子」の謡の練習を行いました。

◆稽古



山下先生による稽古風景

この日の稽古は、伝国の杜・練習室で行いました。山下先生による稽古は、3 月に開催された「春休み発表会」以来となります。

山下先生を迎えて、稽古の始まりの挨拶をきちんと行います。明るく楽しく稽古を行うので、練習室は賑やかです。

◆本年度の演目の決定



本年度の演目の話し合い

本年度、こども狂言クラブで習う演目を相談し、次の7演目に決まりました。

◆演目

- 小舞「七つ子（ななつご）」
- 小舞「風車（かざぐるま）」
- 小舞「宇治の晒（うじのさらし）」
- 狂言「鐘の音（かねのね）」
- 狂言「仏師（ぶっし）」
- 狂言「盆山（ぼんさん）」
- 狂言「口真似（くちまね）」



山下先生との話し合い

本年の取り組み目標は、謡に関しては、小舞「七つ子」、小舞「風車」は、全員がうたえるようになること。

舞に関しては、小舞「風車」は男子が舞うことで決まりました。

右急周りや飛び返りといった全身を使った動きがあり、上手に着地しないと姿勢が崩れてしまうので、難易度が高い舞です。

また、小舞「七つ子」は、子守唄となっているので、女の子が舞うことで決まりました。



山下先生との話し合い

狂言に関しては、誰がどの演目を演じるかを決めました。狂言を演じることができる子は限られてくるので、演じたい演目の希望に添えない場合が出てきます。

山下先生は、「将来、社会に出たら自分の願いが思い通りに叶わないことも出てきます。今、自分に与えられた演目を一生懸命に取り組み、今できる経験を活かして次回に繋げるために前向きに考えていきましょう」と子どもたちに伝えていました。

◆小舞「七つ子」謡の練習



小舞「七つ子」謡の練習風景

後半の稽古では、小舞「七つ子」の謡を覚えました。手本として、最初に山下先生が謡をうたい、謡を聞きながら発音や音程などを覚えていきます。

わからない部分などは積極的に山下先生に質問し、子どもたちも先生も熱心に取り組んでいたのが印象的でした。



山下先生による謡のお手本

こども狂言クラブの子どもたちは、学校や部活動などがある中の限られた時間で稽古に参加し、謡を覚えるのは簡単なことではないはずです。

演目の謡の意味をしっかりと頭に入れ、発音やイントネーションなども上手にこなさなければなりません。

こども狂言クラブの本年度の方針にもあるように、各自での自主稽古が重要となってきます。



山下先生への質問も飛び交う

こども狂言クラブは本年度も発表会が沢山予定されています。

初めて習う演目に挑戦していき、発表会に向けて新たな1年が始まります。



- 取材日 平成 25 年 6 月 23 日（日）
詳細：[こども狂言クラブ稽古日](#)
会場：伝国の杜・練習室
- 取材協力 伝国の杜こども狂言クラブのみなさん
指導者 和泉流狂言師 山下浩一郎先生
公益財団法人米沢上杉文化振興財団 伝国の杜・置賜文化ホール
- 執筆編集 置賜文化フォーラム編集員 佐藤道代